

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から④

1869(明治2)年に、今治藩医・国学者の半井梧
 刊行された「愛媛面影」(木 菴(なからい・こあん)。
 版墨刷、5巻5冊)は、伊 折しも今年は本書の刊行1
 予国全域を対象とした初の 50周年に当たる。
 本格的地誌である。作者は 本書の内容は、古代に置

伊予国全域網羅の地誌

かれた伊予国14郡ごとに、
 郡内各地の石高、社寺、山
 川、城、町、名所旧跡、物
 産などについて、数多くの
 引用書物を挙げて、和文体
 で詳しく書かれており、梧
 菴の学識の豊かさを示して
 いる。
 収録する図版は、江戸時
 代後期に流行した名所図会
 の様式にならない、愛媛の名
 所旧跡、宝物、産物などが

残念に思い、自らがそれ
 に代る新たな「伊予国風
 土記」を編さんし、後世に
 伝えたいと述べている。
 本書の名称も日本最古の
 歴史書「古事記」に「か
 れ伊予国を愛比売(えひめ)
 といふ」ことから命名され
 ている。

廃藩置県を経て、187

3(明治6)年2月20日に
 愛媛県は誕生する。県名「愛
 媛」は、本書の名前から採
 用したとする説があり、「愛
 媛面影」の作者・半井梧菴
 は「愛媛」の名付け親とも
 いわれている。
 (専門学芸員・今村賢司)

「愛媛面影」は、県歴史
 文化博物館(西予市)で常
 設展示中。
 × ×

△月2回掲載します▽

「愛媛面影」



伊予国全域を網羅した初の本格的地誌
 「愛媛面影」(縦25㌢、横30㌢)

＝1869年刊行、県歴史文化博物館蔵

克明に記録されている。
 その多くは現地で見景や
 実物の写生をもとに描か
 れている。絵師は小松藩
 の林澍光(とくこう)と、
 風景画を得意とした大坂
 の松川半山(はんざん)
 が担当した。近世後期一
 幕末期の伊予国の姿を記
 録した絵画資料としても
 貴重で、本書の史料的価
 値は高い。
 1866(慶応2)年
 の梧菴の自序によらんと、
 本書の編さんはすでに
 幕末期には着手してい